

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般小売店〔印章〕（営業担当）	来客数の動き	・2月は暇な時期だが、前月に続いて市町村合併に伴うゴム印などの注文があり、それ以外に一般でも印鑑注文などがたくさんあった。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・閉店セール実施に伴い、売上は堅調に推移している。その中において、特に、紳士衣料、宝石、アクセサリなど今まで動きの悪かった高額商材が動いており、景気は若干上向いている。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・基調的には流れは変わっておらず、「やや回復傾向」である。高額品であるナビゲーションが引き続き好調に推移しており、一般集客用品が伸び悩む中で下支えとなっている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・3か月前と比べると客単価は横ばいであるが、客数は増加している。
		旅行代理店（営業担当）	来客数の動き	・愛知万博により、需要が喚起された。
		通信会社（販売企画担当）	お客様の様子	・新製品効果もあり、商品比較検討目的による来店客数が増加した。
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・例年販売量は減少する時期であったが、例年以下の落ち込みは見受けられなかった。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・春物商戦が始まったが、冬型の天候で推移していることもあり、昨年、消費を引っ張ったスプリングコートの売行きが良くない。特にヤング層を対象にした春物は、売上2割減といった状況である。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・季節の変わり目であり、気温変動が日々の売上に大きく影響している。 ・食品催事には多数の顧客動員があったが、他の売場への波及効果はほとんど見られず、目的買い傾向が目立った。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・ここ3か月以上、販売点数が前年比103%、来店客数は101%前後で堅調に推移している。最近、買上単価も前年を上回り始めた。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・今年のバレンタイン商材では、100円から200円という低価格商材が前年に引き続き不振であった。 ・会社で義理チョコを廃止したという顧客の声も聞こえてきた。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年度と対比して、顧客の来店数にかげりが見える。
		家電量販店（副店長）	販売量の動き	・液晶テレビを中心とした薄型テレビの販売構成比が大きく伸長している反面、多少回復の兆しが見えていた、特にパソコンをはじめとするOA関連商品の動きが鈍化している。冷蔵庫を中心としたハウジング商品の動きも悪い。NETオーディオ商品は好調だが、単価が低いマイナスイヤを補うまでには至っていない。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・自動車業界は、1,000ccクラスは少し活発だが、2,000ccクラスは全く動いていない。
		その他専門店〔カメラ〕（地域ブロック長）	それ以外	・今年に入りレジ件数は大きく前年割れをしているが、顧客の購買意欲は大きいようで、客単価は上がっている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数、売上ともに、先月は好調であったが、今月は積雪などもあり苦戦した。しかし、客単価は変わっていない。よって、先月の状況と変化はないものと判断している。
		スナック（経営者）	競争相手の様子	・2月は、例年、年末と比べ、売上は低下する傾向にあるにもかかわらず、今年は、売上が減少しておらず、他店と比べても好調であった。
		その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	来客数の動き	・売上は昨年より1日少ない分落ちるが、曜日調整で見ると上昇傾向は続いている。今月は週末に雪が多く一服状態であったが、客単価は低いが客数は上昇傾向が続いている。

	観光型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・決して好調であるとは言い難いが、先の予約が徐々に入ってきている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・ガソリンスタンドや飲食店の閉鎖が見受けられるが、タクシー業界は、前年同月の好調な傾向を、今年も維持している。
	タクシー運転手	単価の動き	・昨年秋からチケット利用客の間に、5千円、3千円など上限を示したチケットが増えてきた。このような点も、中長距離客減少の一要因になっている。
	通信会社(経営者)	お客様の様子	・加入契約数がここ数か月の実績から低下したままであり、かつ解約も増加しており、純増加数が低迷したまま推移しており、更に減少も見られる。
	住宅販売会社 (経理担当)	単価の動き	・契約件数は目標を達成しているが、既存物件を値引いたことによる契約が10%程度を占めているので、利益は計画を下回っている。
	住宅販売会社 (販売担当)	来客数の動き	・展示場、イベント、売出しの来客者数が、前年と比べ約1割程度落ち込んでいる。
やや悪く なっている	百貨店(電算担当)	販売量の動き	・月初の大雪の影響を他の日でカバーできず、2月の売上高は前年比6%前後減少した。特に来店客数が減少した上に、婦人衣料部門の売上高が前年比10%前後減少した。
	百貨店(売場担当)	来客数の動き	・衣料品部門において、前年と比較して、春物商材の動きが鈍い上に、冬物処分品も動いていない。お手上げの状態が続いている。
	スーパー(店長)	来客数の動き	・買上客数減少以上に、買上件数も減少している上に、競合店の媒体攻勢も強く、乱売合戦となり苦戦している。
	コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・2月は、売上強化のため販売経費を2割程度増加させたが全て前年比割れとかなり悪く、利益が出る状態ではない。
	コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・節分商材は堅調であったが、その後、客数自体減少傾向であった。
	衣料品専門店 (地域ブロック長)	来客数の動き	・寒さが長引いているため、春物商材が動かず、冬物処分品のみ動いている傾向である。 ・フレッシュマン、リクルート需要の動きも遅い。 ・高額商品と低額商品の二極化が進んでいる。
	乗用車販売店 (統括)	販売量の動き	・例年2月から3月初旬は来店客も多く販売量は増えるはずなのだが、まだ大きな動きがない。新商品が発売となり多少の動きは見られたが、波及効果は薄い。他メーカーとの競合も少ない。契約に至るまでの時間もかかっているように思われる。
	乗用車販売店 (販売担当)	販売量の動き	・1月までの3か月間は、新型車効果で前年比150%強の販売量があったが、2月に入り、受注量は前年並みに減少した。
	住関連専門店 (営業担当)	来客数の動き	・前年よりも2回多く特別広告を出したが、前年比95%の売上である。利益は落ち込み、来客数も減少している。
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・例年2月は閑散期ではあるが、前年と比べても、今年は来客数が非常に減少している。
	都市型ホテル (従業員)	来客数の動き	・1月は、来客数は前年並みであったが、2月に入り、かなり減少した。
	その他レジャー施設[温泉センター](営業企画担当)	来客数の動き	・日帰り温泉部門もホテル部門も大きく前年割れを示し、異常な動きを感じている。営業促進がうまく進んでいないことも原因としてあるため、一概に景気の影響ばかりとは言えない部分もある。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・受注量が2割減となっている上に、販売価格も3%前後減少している。
悪く なっている	百貨店(売場担当)	販売量の動き	・2月以降、売上が前年比88%で推移しており、苦戦している。特に卒入学関連やリクルート関連の衣料品、並びに、プロパー商品が苦戦しており、春物商材も特売品で購入する傾向が見られる。
	住関連専門店 (広告企画担当)	お客様の様子	・かなり予算的に厳しくチェックされている顧客が多くなってきている。商品は気に入り、価格も納得し、しかし決定しない顧客が多い。良いものを求めてその傾向だとよいのだが、価格帯の低い商品でも同じ傾向である。

		その他専門店 [時計] (経営者)	来客数の動き	・前回2月のペイオフ実施の時、純金、金貨などが動いたが、今回2月のペイオフでは、その半分に満たないペースでしか推移していない。
		ゴルフ場 (営業担当)	来客数の動き	・天候に左右される業種だが、今年はそれほど悪い天候ではなかったにもかかわらず、来場者は減ってきている。
企業 動向 関連	良く なっている			
		やや良く なっている	化学工業 (総務担当)	受注価格や販売価格の動き
		化学工業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・相変わらず自動車関連及び電気関係からの受注量は好調である。
		窯業・土石製品製造業 (総務経理担当)	受注量や販売量の動き	・大型案件の生産が最盛期で、さらに新規の受注も活発になってきた。
		金融業 (業界情報担当)	取引先の様子	・輸出を中心とした主力車の販売好調を背景に、生産はフル操業を持続中である。樹脂原料価格の上昇などコストアップから利益率は伸び悩んでいるが、受注拡大により増益は確保している。
		不動産業 (経営者)	取引先の様子	・最近、取引先の動きが少しずつ良くなってきており、特に事務所を中心とした契約件数の動きが少しずつ活発化しつつある。
変わらない		鉄鋼業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・鋼材需要について、国内製造業向けは特に自動車の販売好調を受け堅調を継続し、輸出、高級品の需要は強く、需給逼迫状況を継続している。
		非鉄金属製造業 (経理担当)	受注量や販売量の動き	・中国国内の諸製品が高騰していることを受け、いくつかの製品は値上げが可能となり、また増販となった反面、電子材料関連は、調整局面を迎えている気配を感じている。
		一般機械器具製造業 (経営企画担当)	受注量や販売量の動き	・引き続き、海外向け自社製品売上が好調に推移し、フル生産が続いているが、国内向け仕入れ商品の売上は依然として厳しい状況である。
		電気機械器具製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・自動車関連商材は依然フル操業が続いているが、携帯関連商材は半減している。
		その他製造業 [スポーツ用品] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・依然として消費者動向は低調であり、受注もそれに従い、先行き不透明感が強くあまり芳しくない。一時的に受注が増えたりもするが長続きせず、その後は減産を強いられる。 ・北朝鮮の問題で当地境港の水産加工業者は非常な不安にかられている。実際このところあまり松葉ガニやズワイガニの入りも悪く、作業があったりなかったりしている状況が続いている。それにともない当地区の企業関係も良い話は一つもでてこない。
		輸送業 (統括)	それ以外	・今冬は、積雪など天候の悪い日が多く、車両の運行に影響をきたした。予定外の車両運行となったため、人件費、車両代、通行経費など、予定外の費用が増加した。
		金融業 (営業担当)	取引先の様子	・住宅関連ではマンション建設が見受けられるが、受注先、下請けとも他の地域からの業者が中心で、地元では依然として仕事が少ないという状態である。 ・土木工事を中心とした年度末工事の受注は、前年比2、3割減少といったところが多い。しかし、リストラなどが進み受注減でも乗り切れる状況で切迫した状況ではないが、好況とは決して言えない。
		その他サービス業 [清掃具レンタル] (情報管理担当)	受注量や販売量の動き	・事業者商材において、官公庁関係の入札価格の低下が止まらないうえ、市町村合併に伴い納入先が閉鎖し減少している。大口取引先においても、経費節減の傾向に変化はなく、苦しい状況である。
	やや悪く なっている	食料品製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・今年に入ってからの上は前年と比べて良くないうえに、スマトラ沖地震の関連からかすり身の価格が高騰し、現在の卸値では利益が取れない商品が多くなっている。

		輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注量はほぼ横ばいだが、原材料の値上りで採算が悪化している状態が続いている。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・顧客である地元自動車メーカーの災害による操業、売上の減少幅は、最低限にとどまる見込みとなった。また、設備負荷の低下により、過去最大規模の設備メンテナンスができた。
	悪くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・3か月前と比較すると、水揚数量で640トンの増加、水揚金額で2億円の大規模減少であった。水揚数量増加の要因は県外の大中型巻き網漁の増加にあり、水揚金額減少の要因は小型底引き網漁、各種巻き網漁が減少したためである。 ・前年と比較すると、水揚数量で218トンの増加、水揚金額で7,000万円の増加であった。水揚数量増加の要因は小型底引き網漁、大中型巻き網漁、小型定置網漁の増加にあり、水揚金額増加の要因は沖合底引き網、中型巻き網、小型定置網漁の水揚が増加したためである。 ・不振だったスルメイカ漁が、少しづつではあるが回復してきた。 ・沖合底引き網漁は、安定して水揚げがある。
雇用関連	良くなっている	求人情報誌製作会社（支店長）	求人数の動き	・2月は例年、求人数が伸びる時期であるが、昨年と比べても今年の伸び率は高い感がある。各企業の景況感が良く、求人意欲が高いことが、背景にあると思われる。
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数も増加し、求人倍率も8か月連続で1倍を超えてきている。
		民間職業紹介機関（職員） 学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き 求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットや求人誌など従来通りの媒体では採用が出来なくなったとの問合せを数件受けた。 ・2006年3月卒業予定者の新卒求人数が、前年同時期と比較し、さらに3か月前と比べ、それぞれ増加傾向にある。
変わらない	人材派遣会社（支店長）	雇用形態の様子	・サービス関連は顕著な求人数の伸びを示していて、人手が足りず単価に目をつむっても求人を行うというケースもあるが、事務職に関しては正社員が退職後、派遣社員で対応するケースも多い。	
	求人情報誌製作会社（支社長）	求職者数の動き	・パート、アルバイトから正社員への求人と、雇用形態に変化が見られるものの、企業における採用したいという意欲にはあまり変化が見られない。	
	求人情報誌製作会社（担当者）	周辺企業の様子	・派遣やパートなどの需要はあるが、依然として正社員採用の伸びがない状況である。	
	職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・全体としては大きな動きは見られない。細かく見ると、運輸、通信業において増加傾向が見られるものの、他業種においては横ばい状況で推移している。増加傾向にあった請負求人は、前年比減少に転じている。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年同月と比べると有効求人数は7か月連続して減少し、有効求職者数はパートなどを中心に7か月連続して増加している。有効求人倍率も0.7程度に留まっている。	
	民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・連結売上高200億円強の企業による内部管理スキルを持つ人材の増員計画に対して、地場では人材が不足している。この企業は、地場での採用を諦めて、東京にその部門を移すことも考えている。	
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人は、前年同月比で、件数、人数とも減少している。特に、卸、小売業での減少が目立っている。
	悪くなっている	-	-	-